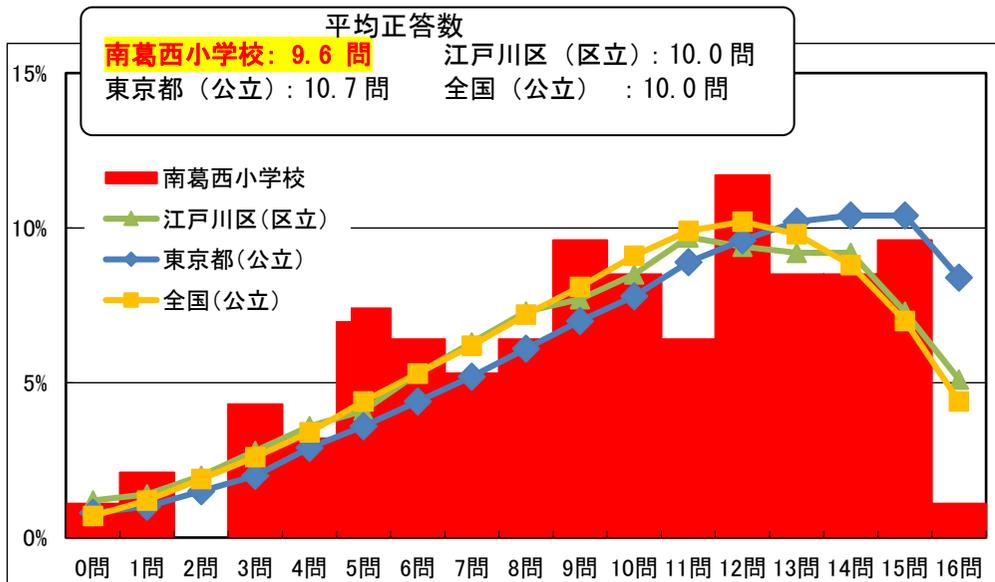


令和5年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 南葛西小学校

正答数分布



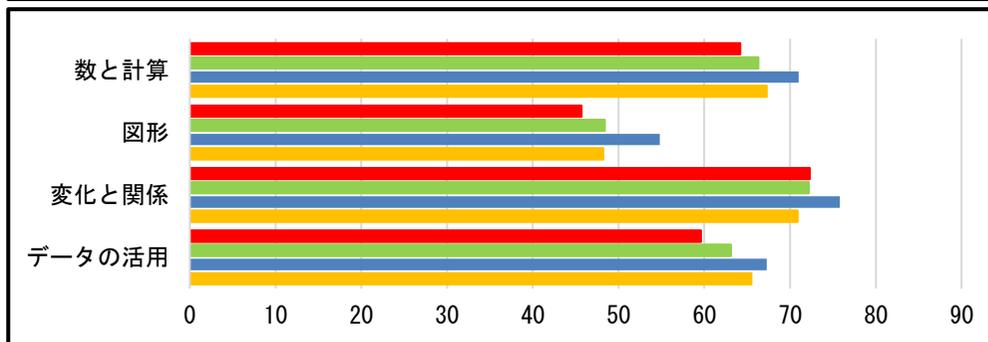
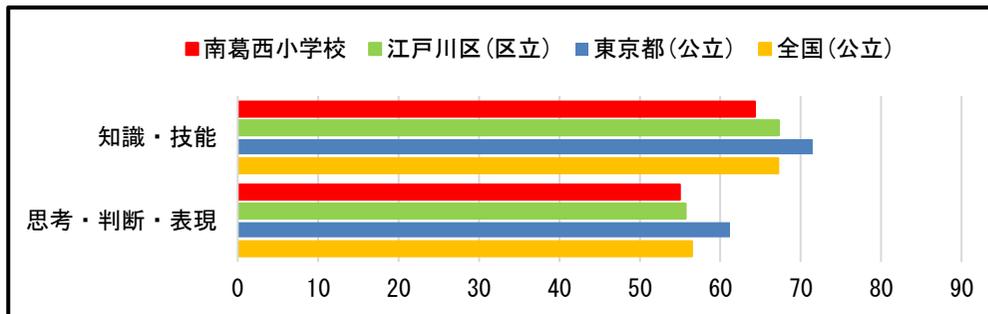
<四分位における割合(都全体の四分位による)>

上位 ← 下位

算 数	都全体の四分位			
	A層 14~16 問	B層 11~13 問	C層 8~10 問	D層 0~7 問
南葛西小学校	19.2	26.6	24.5	29.8
江戸川区 (区立)	21.6	28.3	23.5	26.6
東京都 (公立)	29.2	28.7	20.9	21.2
全国 (公立)	20.2	29.9	24.4	25.5

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【平均正答率の差】

南葛西小学校	60%
江戸川区 (区立)	62%
東京都 (公立)	67%
全国 (公立)	62.5%
都との差	7ポイント

%

【分析結果と授業改善に向けて】

調査全体を通して、四則計算、図形、データ活用などの領域の問題でつまずきがあるため、習熟の時間をしっかり取る必要がある。

問題演習の機会を増やすため、ミライシードを活用した課題・補習を増やし、児童が問題を解くことに慣れさせる。また、授業時間内に計算タイムを毎時間確保し、基礎基本の徹底を図る。

全ての単元テスト実施後、テストを直したり、単元を振り返ったりする時間を設け、学習内容の定着を高める。

問題解決型学習の定着を図り、思考力を伸ばす。自分の考えを友達に説明する時間をしっかり取り、自分の考えをまとめたり、深めたりできるようにする。